

# Message from the CEO

## CEOメッセージ

ジャトコは「技術と情熱でモビリティの可能性を拓く」という  
パーパスのもと、カーボンニュートラルや持続可能な社会の実現に  
つながる商品やサービスの提供に積極的に取り組んでまいります。

ジャトコ株式会社  
代表取締役社長兼CEO

佐藤 朋由



近年経営を取り巻く環境は、大きく変化しています。新型コロナウイルスの世界的な流行や、半導体不足。さらに、エネルギーコストの上昇など、社会そのものの持続可能性も大きく問われています。

このような不確実な時代においても、未来への方向性を見出すことは可能です。当社は、変化の先頭に立ち自ら変革を起こすその道しるべとすべく、2022年4月に「技術と情熱でモビリティの可能性を拓く」というパーパスを策定しました。世界各国の従業員で構成されたチームや経営層が1年以上かけて議論し、生まれたパーパスです。自動車業界が100年に一度の大変革期にある中、私たちが50年以上かけて築いてきたモノづくりの強みを生かして、モビリティの未来を切り拓く姿勢を明確に示しました。

当社が推進する電動化事業も、パーパス実現に向けた取り組みの一つです。当社は、1970年に前身会社のひとつである日本自動車変速機の創業から、自動車用オートマチックトランスミッションの専門メーカーとして成長を続けてきました。一方で、10年以上前から電動化時代に備えてノウハウを積み重ねています。2010年に世界で初めて1モーター2クラッチシステムを採用したFRハイブリッド車用トランスミッション、JR712Eを開発。今年は

新型日産アリアにギア部品を供給し、同車の静粛性などに貢献しています。社内組織も再編し、2022年4月に生産技術の担当で構成された、eパワートレイン推進部を設立。2020年代半ばにはギア・モーター・インバーターを一体化したe-Axleを市場投入し、2030年までには電動車向けユニットを年間500万台供給できるよう準備を進めています。電動化時代においても、世の中のトレンドやお客さまのニーズに寄り添い、競争力のある商品を提供してまいります。

さらに、これまで培ってきた技術をモビリティ領域で生かすため、電動アシスト自転車用ユニットを研究開発しています。2022年3月には、本社がある静岡県富士市と「自転車を活用したまちづくりと地域課題の解決に関する協定」を締結しました。観光振興や市民の健康増進、交通渋滞の緩和、環境負荷の低減など自転車を活用した地域課題の解決やSDGs達成に向けて取り組んでいきます。

昨今、脱炭素に向けて世界各国や企業がCO<sub>2</sub>排出削減目標を掲げています。当社は2050年までにバリューチェーン全体でのカーボンニュートラル実現を目指しています。電動化商品の研究開発や工場での省エネルギーや脱炭素化などを推進し、2030年までにCO<sub>2</sub>排出量を2013年比で46%削減します。

活動の進捗は、会長、社長、各取り組み担当役員が出席する「カーボンニュートラル・ステアリング・コミティ」で定期的に議論しています。

これらの活動を推進するのは、多様性豊かな従業員です。グローバルで働く一人ひとりが生き生きと活躍し、成長する環境が企業の活性化につながると考えています。その結果が外部にも認められ、2019年より4年連続で経済産業省主催の健康経営優良法人を獲得しています。また、社会からの信頼を得るためには全従業員が各種法令やポリシーを遵守し、高い倫理観を持って公正で誠実に行動することが不可欠です。当社はグローバル共通の行動指針である「グローバル行動規範」を基に、コンプライアンスの徹底に努めています。

環境課題や社会課題の解決には、一企業の活動ではなく、従業員、お客さま、ビジネスパートナーの皆さま、地域社会等全てのステークホルダーとのコミュニケーションが重要です。ジャトコは新たなパーパスのもと、皆様とともに積極的に持続可能な社会の実現に向けた取り組みを進めてまいります。